

令和 8 年度 調布市立布田小学校 学校経営計画 (学校長 久保田 直人)

学校の教育目標	
◎自ら考えくふうする子 (知恵) ○けんこうでねばり強い子 (勇気) ○なかよく助け合う子 (優しさ)	
目指す学校像 (ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
一人一人が大切にされる学校～子供が感じ、発想して、自ら動き出す学校～	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	◇各学年・学級は落ち着いていて、真面目に学習に取り組む様子が見られる。 ◇テストで測る学力は高い。 ◇おだやかで協力的な子供が多く、大きな事故などはない。 ◆体力の向上が不十分である。 ◆小さな集団にまとまりがち。 ◆粘りやこだわりが欠ける面が見られ、逆境に弱い。
中期的な経営目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1 自律した行動のとれる知性、判断力や、豊かな心をさらに醸成する。 2 ICT や対話という手段を重要な活動と位置づける等して、児童の主体的対話的で深い学びの実現を図り、学力の向上を図る。 3 健康保持・体力増進のために考え、判断する力と積極性、体力の向上をめざす。 4 アレルギーや熱中症対策、いじめ問題や不登校対策、安全指導の情報共有と組織対応、徹底により、安全・安心な学校生活を確立する。 5 子供たち一人一人の個性を大切にしながら、自己有用感をもち生き生きと活動できる学校教育を展開する。 6 CS 制度を活用し、地域の知恵や教育力を活用して、学校の教育活動、児童の安全確保をより充実させる。 	
人・組 一人一人が大切にされる職場環境を構築するとともに、チームワークよく職務を進めることができる組織にしていく。	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
1 豊かな心 (徳)	2 確かな学力 (知)	3 健やかな体 (体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
①道徳科の指導を要として、互いの良さを認め合う活動や異学年交流を通して、子供たちの優しさの心を育む。	①ICT を積極的に活用し、児童が個別に最適な学びの獲得と、互いに対話したり協働したりしながら学ぶ経験値をさらに高める学習指導を工夫し展開することで、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。	①なわとび・持久走期間の取組を充実させ、運動技能や体力を育てるとともに、チョコプラワンで運動への関心、わずかな体力向上の蓄積を進める。
②生活目標に示された基本的な生活習慣 (挨拶・返事・言葉遣い等) を家庭・地域と連携して定着させる。	②読書活動・文化文芸的活動の充実を図り、子供が様々な表現を学べるようにする。	②体育の授業、休み時間の外遊びの奨励など、熱中症対策、児童の体調等に十分留意した運動の機会の充実を図る。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
①保護者アンケートで、優しさの心を育むことに関する肯定的評価 80%以上。	①保護者アンケートで、学力の定着に関する肯定的評価 80%以上。国・学力調査・平均正答率国語 70%以上・算数 70%以上。	①保護者アンケートで、体力向上に関する肯定的評価 80%以上。
②保護者アンケートで、基本的な生活習慣が身に付くよう家庭と学校で指導していることに関する肯定的評価 80%以上。	②保護者アンケートで、読書活動や文化文芸的活動に関する肯定的評価 80%以上。	②保護者アンケートで、体力向上に関する肯定的評価 80%以上。
学校の特徴を生かした領域 <短期的な経営目標>		
4 映画の街 調布市立布田小ならではの学習活動の展開	5 個に応じた安全・安心な学校生活の確立	6 保護者・地域の教育力の活用
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
①映像表現という手法を用い、総合的な学習等の単元のまとめを発信する。児童の意欲や協働的な主体性を保証した活動を行う。	①個に応じた教育活動の具体的な展開を行うために、指導教諭や拠点校専門職員の知識や手法を OJT で学び合い、児童が教室や学校の中で自分に自信をもって学ぶことができる環境をつくる。	①PTA 行事と地域行事について、保護者・地域と連携して、活性化を図る。
②多摩川の自然環境、下布田遺跡という歴史遺産、畑作、田植えや収穫、地理的な「はけ」を身近にもつアドバンテージを活かすとともに校内環境を整備する。	②定期的な状況把握、対策委員会の組織的な対応、情報共有を行い、未然防止と早期解決を図る。 ③アレルギー対応のルールを確実に実施する。	②見守りアテンダントの協力を得て、防災・防犯、交通安全の協力を得る。

(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）	(2) 成果目標（数値目標）
①3年生以上において、年間一単元、インタビュー形式・ルポ・ナレーション・ニュース・映画の創作に昨年度作品を参考にチャレンジをする。	①保護者アンケートで、個に応じた指導・支援の充実に関する肯定的評価80%以上。	①学校関係者評価委員会における肯定的評価80%以上。
②校外学習等において、年間1回以上、全学年がいずれかについて必ずふれる。また、ビオトープや栽培環境整備の向上を理科委員会などの子供の具体的な活動に投影させる。	②いじめ案件0、確認できた場合解消率は100%。不登校児童を1名でも減らす。保護者アンケートで、いじめや不登校の取組に関する肯定的評価80%以上。 ③アレルギー事故0件	②交通事故、犯罪被害0件。地域からの情報対応100%、児童への指導還元必須。

人材育成・組織運営
<p>◇サービス事故防止に向けた、全教職員の意識の向上とプロ意識、責任感の更なる醸成を図る。</p> <p>◇校内研究や授業観察等を通して、教員の授業力の向上を図る。</p> <p>◇面接等により主任教諭の役割を自覚させ若手へのOJTを活性化するとともに、指導教諭・OJT担当をリーダーに校内研修会を開催し、常に学び続ける教員の資質向上を図る。</p> <p>◇SSSや副校長補佐などの人材の計画的な活用、会議・業務等の削減などを通して、働き方改革を推進する。</p> <p>◇主幹・主任教諭をリーダーとして各分掌に配置し、自主的・計画的に職務を進める組織づくり、組織的取組を進める。</p>